公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信 2014年3月号

日本野鳥の会80周年

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆安西英明の探鳥会講座
「案内人の意義や楽しみ」・・・・・・・・１
◆私たちの探鳥会自慢
「女子探鳥会について」・・・・・・・・・３
◆「トコロジストの集い」参加報告・・・・５
◆茨城県からのご報告
「会報の手配りをしています」・・・・・６
◆探鳥会保険集計結果
（2014年１月分）・・・・・・・・・・・８
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・１０
・次号から撮影マナーの事例を紹介します
・野鳥の子育て応援ポスター、完成しました！
◆会員室からのお知らせ
・財団事務局HPのスマートフォン対応・１０
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・１１
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・１２
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・１２

◆安西英明の探鳥会講座

「案内人の意義や楽しみ」

■高野さんと失敗談

高野図鑑の改定では、原画にも手を入れた。元の絵を損なわないように、高野さんのご教示で同じ絵具を使っている谷口高司さんが、最新の知見に沿って微修正を施した。天国の高野さんに「ごめんなさい」とつぶやきながらの作業で、高野さんが「どんな野鳥との出会いでも、自分という点と野鳥という点が出会うのだから、意味がないわけがない」と話されていたことを、ふと思い起こした。私が常に双眼鏡を離さないようなったきっかけだと思うが、失敗談も思い出した。

昼食にカレー食べていたのだが、何の探鳥会だったろうか？　昼食時、不意に上空をタカが舞った。私は食事中も双眼鏡を下げていたので、慌てて双眼鏡を手にしようとする他の参加者を尻目に、余裕で構えることができた。ところが、画面が見えない。接眼レンズ一杯にカレーが垂れていたのだった。

■野鳥から自然を知る

案内人は、参加者の野鳥との出会いをお手伝いする。楽しみ方や見分け方、聞き分け方を伝えるには、バードウォッチングの経験や知識と相手への配慮が必要だ。また、探鳥会を持続させるために、当会の理念や活動を伝えて支援者を増やす、案内人を増やすことも大切だ。自然保護団体としての理念や活動を知っていただくにも、案内人の育成にも、野鳥のすみかである自然について知っていただくようにしたい。１羽の野鳥から生態系、環境保全の観点まで展開する例を、『野鳥と自然の解説実践ハンドブック』では図のように示した。このような展開は難しいと言うことなかれ、当会発行の図鑑を活用いただければ、「はじめに」などで引用、応用できるセリフをちりばめてきたつもりである。

例えば、この季節なら１〔親しむ〕２〔知る〕ための観察ポイントとして、冬鳥の飛去、夏鳥の飛来、さえずりや求愛などがある。それらが意味するところ、すなわち繁殖というミッションについて考えてもらうというのはいかがだろうか？

季節は春へと向かい、今年も野鳥たちは子育ての季節を迎える。毎年繰り返される子だくさんの子育て、さらに一冬生きのびれば多くは繁殖年齢に達するという成長の早さを持ってしても、増えすぎないのはなせだろう？　鳥の食物となる虫やクモが何百、何千という卵を産んでも増えすぎないワケも合わせて考えてみよう。どんな命も生きのびよう、命を繋ごうとするが、多くは他の命の食物となるので、私たちが出会う野生の命は生きのびた一部でしかない。少なくとも、野鳥１羽でも生存をかけたドラマがあり、たくさんの命に支えられている事実は、自然の理解（ヒトを生み、人類繁栄の資源となった生物多様性の理解）に役立つと思う。

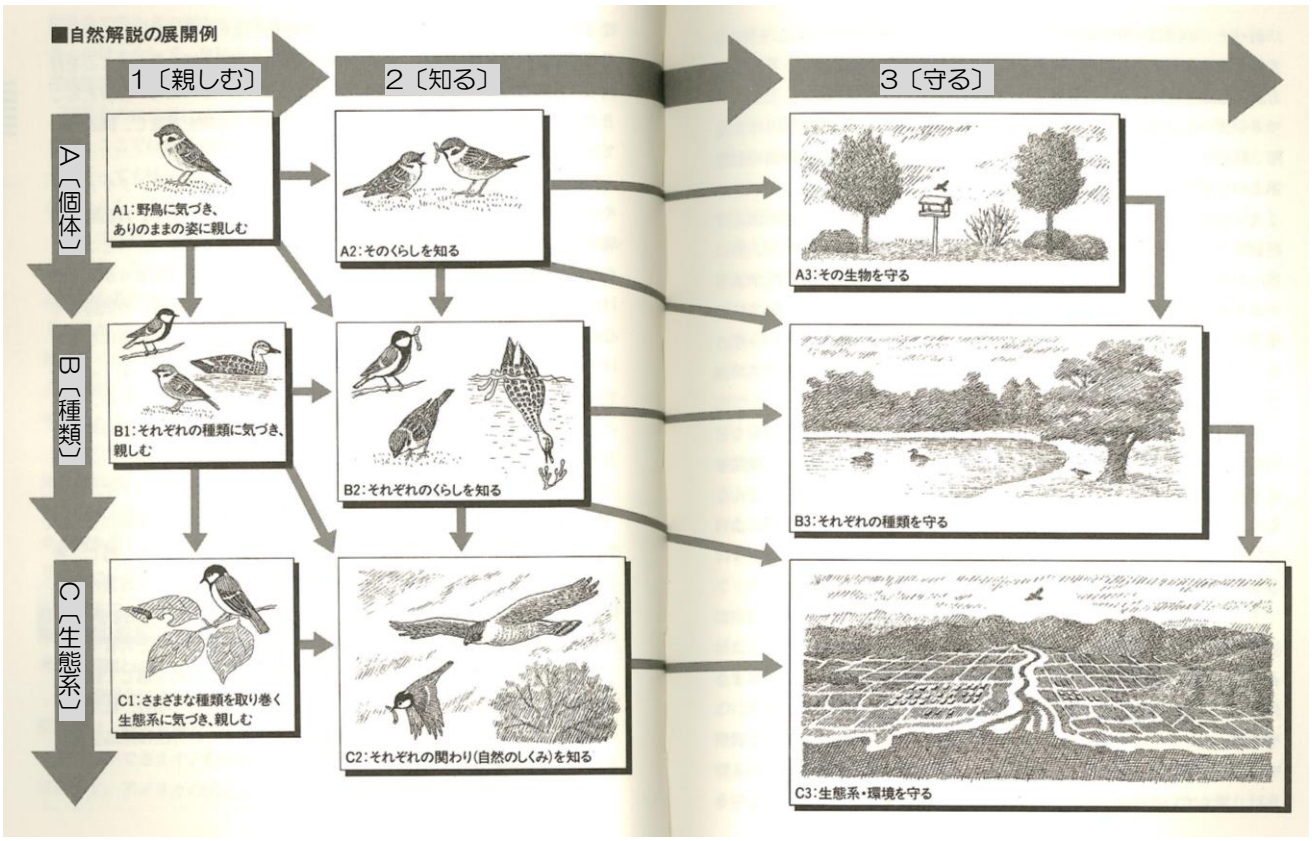
探鳥会での解説はランダムになりやすいので、私は最後に、あるがままの野鳥に親しむ意義と上記のような自然認識の基礎を合わせてまとめるように心がけている。下の図では「親しむ」が先で「知る」が後になっているが、同時も逆もあってよい。私自身は野鳥から命のさまざまやつながりを知ることで、鳥だけでなく命を切ないほどに愛おしく感じられるようになった。さらに、文明の有難さと危うさ、自分自身と今この時のかけがえのなさに気づくことができ、案内人のやりがいは大きなものとなった。

■伝える楽しみ

私の大学の授業（インタープリテーション）では、「人にあげると増える、人と共有することでより大きくなるものは何でしょう？」と切り出し、自身の発見や感動、喜びを伝える動機づけとしている。拙著『野鳥 eco 図鑑』では「楽しみ方さまざま」という章で、究極の楽しみ方として紹介しており、そこから転用してこの連載をひとまず終わらせていただきたい。

・・・「伝える楽しみ」はつらさを経験するとより感じとれると思っている。愛する人にさえ伝えられなかったこと、後になって独りよがりや思い上がりに気づいて、寂しさやむなしさで眠れなかったことなど、苦い経験があるほど、伝えられた時の喜びは大きい。また、伝えることを意識することによって、鳥を見ることがさらに楽しくなった。私の授業で最後に述べるセリフを記しておく。「還元を前提にすると認識は深まり、感動は倍増する」・・・

（普及室／安西英明）



▲『野鳥と自然の解説実践ハンドブック』P38/39
イラスト：村山純子

◆私たちの探鳥会自慢

今月号から始まる新コーナーです。これまで財団から近隣の探鳥会に訪問し、探鳥会の様子を紹介するコーナーはありましたが、訪問できる範囲や数が限られています。そこで、支部の皆さんからの投稿で、各地の探鳥会を紹介していただくコーナーを設けました。

第一回目はオホーツク支部が取り組んでいる女子探鳥会についてです。

「女子探鳥会について」

■企画の経緯

支部長・川崎康弘から「女性だけの探鳥会を企画してみたら？」との提案があり、おもしろそうだからやってみようということになりました。

支部長は、女性が多いと和気あいあいと場が和み、初めて参加した方やビギナーの方も自然と緊張がほぐれて楽しむことができ、結果として人の輪がどんどん広がっていくという「女性ならではのチカラ」があることを日頃から強く感じていたそうです。

そこで『女性にも気兼ねなく楽しんでもらう場を作って人の輪を広げたい』という想いからの提案でした。それまでは気の合う女性同士で鳥見を楽しむことはありましたが、一般会員・非会員向けの探鳥会として企画したことはありませんでした。

開始年は 2012 年、これまでに３回の女子探鳥会を行いました。

2012 年９月 23 日（日）、第１回目の女子探鳥会を行いました。場所は網走湖の女満別湖畔でした。その後、第２回目を 2013 年３月３日（日）のひな祭りの日に網走湖の呼人探鳥遊歩道で企画しましたが、猛吹雪のため中止。すぐに代わりとなる第 2 回目の女子探鳥会を同年４月 14 日（日）に濤沸湖で企画し、実施しました。第３回目は同年９月 23 日（月・祝日）に第１回目と同じ場所で企画・実施しました。

■探鳥会の流れと特徴

女子探鳥会の企画・実施は女性幹事が自主的に考え実施することにしています。探鳥会の担当（リーダー役）も女性です。

参加者は文字通り女性限定であること、ただし年齢不問で、女性であれば子供から年配の方まで幅広い年齢層の方にご参加いただいています。女の子のお孫さん（小学校低学年）を連れた年配の方が参加してくださることもありました。

当日はその日のご都合や気分で気軽に参加できるように、申し込み不要としました。

女子探鳥会に限りませんが、オホーツクでは公共交通機関の便があまり良くなく、皆さんほとんど自家用車で探鳥地まで来られます。探鳥地を決める時には、付近に広い駐車場があることが絶対条件となります。第１回目の女子探鳥会では、車の運転ができないから参加できない方もおられるのではないかという意見があり、JR 女満別駅付近の駐車場を集合場所にして、汽車の発着時間に合わせて探鳥会を行いました。ただ、この日に参加された方は全員自家用車で来られ（乗り合い、ご主人の送迎で参加された方も）ましたので、第２回目からは普段通り自家用車参加を前提に企画しました。

探鳥地は歩きやすく 700m～1km 程度のコースや、駐車場からあまり歩かずに鳥を見られる場所としました。時間は２時間程度です。

▲第１回女子探鳥会、観察の様子

探鳥会は普段通り、数人の幹事が案内役となって、スコープに入れた鳥を見ていただいたり、

鳥の特徴について説明します。女性どうしだと１羽・１種類の鳥を時間をかけてじっくりと観察できるような印象があります。シジュウカラやマガモなどごく普通の鳥でも、なにげない仕草を見ては「かわいい！」「何をしているのかしら？」「きっとこう考えてるんじゃない？」など鳥を見ながらの会話が弾みます。

探鳥会後には希望者でランチタイムを楽しむ時間を作りました。第１回目は探鳥地近くの中華料理屋さん、第２回目は濤沸湖水鳥・湿地センター内の部屋をお借りしてお弁当持参で、第３回目もお弁当持参で、女性幹事の一人が経営する喫茶店へ車で移動してランチタイムを楽しみました。昼食を食べながらおしゃべりを楽しみ、初対面の方や初めて参加された方も、参加者同士がゆっくりと交流できるようにしました。

女性、とくに中高年の方はどうしても男性に気を遣い、一歩譲ることが習慣になっています。女性だけだとそういった気遣いから解放され、のびのびとした雰囲気が感じられます。

▲第２回女子探鳥会、ランチタイムの様子

■参加者の声

参加者からは、
「女性だったら初歩的なことも優しく教えてくれそうだったので参加した」
「探鳥地が自宅から近いので参加した」
「申し込みがいらないのが良かった」
「みんなで食べるランチが楽しい」
などのご感想をいただきました。

■今後の課題と展望

女性幹事は探鳥会の担当役（リーダー）となると荷が重いと考える方が多く「里実さんが担当をしてくれるなら（女子探鳥会を）やりたい」という意見でしたので、担当は私が引き受けることにしました。ただし私がすべて完璧に仕切るのではなく「何かあったときの責任は私が取るけど、あとはみんなに任せる」くらいの気持ちで気軽に担当役をやらせていただいています。

参加者数をみると第１回目は 20 名、第２回目は 19 名、第３回目は 10 名でした。第１回目と第２回目は支部報と支部の HP のほか、北海道新聞（地方版）と網走・北見地方の情報誌「経済の伝書鳩」に広報しましたが、第３回目は手違いがあり北海道新聞に掲載することができませんでした。「参加したかったけど知らなかった、残念」という方もおり、探鳥会の開催について会員だけでなく非会員にも知ってもらえるように広く広報することは重要だと思いました。

今後、候補となる探鳥地はいくつかありますが、探鳥会後のランチの場所を選ぶのに苦労しています。今のところ申し込み制ではなく、探鳥会が始まってみないと人数がわからないので、お店の予約は難しく、大人数でお弁当を広げられる場所も限られていますし、探鳥地からランチの場所まで離れていると移動が大変です。「ゆっくりランチを過ごせる場所が近くにある楽しい探鳥地」の選定が今後の課題です。

いまのところ女性限定ということと、アフター探鳥会のランチ以外は定例探鳥会と同じですので、今後は手芸のワークショップとくっつけてみたり、何か女性ならではの楽しい企画ができたらと思っています。探鳥会を介して人の輪が広がり、鳥好きな方が増えてくれたらいいなと思います。

（オホーツク支部幹事／川崎里実）

◆「トコロジストの集い」参加報告（神奈川支部）

昨年 10 月に財団事務局から『トコロジストになろう！』というブックレットが刊行されたことをきっかけに、神奈川支部で「トコロジストの集い」が開催されました。支部では毎月同じ場所で定例探鳥会が開催されており、1 つの場所にこだわって活動されているトコロジストがたくさんいます。神奈川支部はトコロジスト（※）の考案者、浜口哲一さんが支部長をされていた支部で、言わばトコロジスト発祥の地です。今回トコロジストの情報交換の場として、鈴木支部長の呼びかけで開かれました。

※「トコロジスト」とは、場所という意味の「トコロ」と、～をする人という意味の「ジスト」からなる造語で、「その場所の専門家」という意味です。

▲当日の様子

■開催概要

日時：2 月 15 日（土）16 時～18 時
場所：神奈川支部事務所
参加者：17 名（神奈川支部から 15 名、財団事務局から箱田、堀本）

■報告の内容

それぞれの地域で活動する４名のトコロジストから活動報告がありました。

＊各トコロジストの活動

＜小林さん＞
神奈川県大和市が 2009 年から毎年開講している「トコロジスト養成講座」を受講し、大和市の緑地「深見歴史の森」をフィールドとしたトコロジストに。活動を続けて 4 年が経過、生きものの調査から始め、現在は近くの保育園を対象に、森の散歩も実施している。

＜鈴木支部長＞
①三浦半島にこだわる、②生物多様性をテーマに、③他県での活動を除き、頼まれたら断らない、誰とでも仲良くする。という３つの掟を持って幅広く活動。二子山での定例探鳥会は 20 年以上、二子山の大山林道での鳥類調査は 15 年以上続けている。

＜田島さん＞
一昨年から東京都稲城市城山公園で活動を開始。グループの中心メンバーは、幼稚園の父親の会に所属するお父さんたち。月 1 回の観察会を継続している。公園の後背地には、米軍の弾薬庫跡の広大な森が広がっている。

＜久保さん＞
神奈川県鎌倉市で、定例探鳥会を軸に 30 年以上活動。里山の保全活動をしているグループをはじめとする他団体と協力しながら活動を進めている。

４名の方の発表からは、トコロジストとして活動をする上で、どこでも共通する大切な視点があるのではないかと思いました。以下に紹介します。

＊一カ所を深く見る楽しみ

小林さんの発表の中で、「同じ場所に頻繁に通うということは、バードウォッチャーとしていろんな場所で鳥を見ていた頃とは違う楽しみがある」という言葉が印象的でした。鳥を中心に考えると、今の場所はある季節の一時しか面白くないと思えるのですが、年間を通して頻繁に見ることで、今まで見過ごしていた鳥にも気づき、鳥の生活そのものが見えてきます。またその鳥を自分の場所で見られたという嬉しさや喜びがあるそうです。

＊地権者との交流

１つの場所に根ざして活動するトコロジス

トたちにとって、地権者への配慮は欠かせません。あいさつや声掛けなどをきちんとし、草刈をして喜んでいただいたりしながら、信頼関係を築くことを大事に活動されていました。

＊定量的なモニタリング

久保さんの発表の中で、「トコロジストの一番基本的な役割はその場所の継続的なモニタリングではないか」という指摘がありました。その際に、ある生きものが「いる」か「いない」かだけでなく、数を記録し、定量的に把握することの大切さがあげられていました。生きものがいなくなってしまってからでは対処するには遅く、減りかけていて危ないということを、データをとり続けることで察知し、発信することがトコロジストの役割ではないかと話されていました。

＊観る人と作業する人

トコロジストとして活動するフィールドには、同じくその場所で活動する他の団体が存在することもあります。

例えば、植生管理をするグループがいた場合、自分のデータを使って、管理の仕方についてお願いする場面も出てきます。そのときは上から目線にならないよう気を付ける必要があるとのことです。そのためには、自分でも草刈などの作業を経験し、暑い中での作業の大変さや作業に一生懸命になる気持ちを分かっていることが大切だそうです。一緒に作業をすることで、相手の立場を理解した上での発言が出来るようになるとのことです。

＊活動の先に見据えるもの

４名の方の発表から、トコロジストとしての活動の先には保全がありました。

例えば鈴木支部長は、自分の決めた範囲の土地では依頼を断らず、いろんなところに顔を出し、いろんなところで活動しています。その背景には、人と人との繋がりを作ることがゆくゆくは保全の力になるとの思いがありました。

また、活動する公園の後背地に米軍が管理する広大な森がある田島さんのグループでは、生きものデータを蓄積する先に、将来その森が返還されるとき、保全の重要性を主張するための礎にしようという思いがありました。

■まとめ

トコロジストとして活動する中には、どこの場所にも共通する戸惑いや続けていく中で感じるトコロジストとしての使命や意義があり、今回のようにいろんな場所で活動するトコロジストが集まってお互いの話を聞ける機会は大変有意義なものだと思いました。

今回神奈川支部が開催されたようなトコロジストの報告会や勉強会をやってみませんか？　支部等連携団体には、財団からブックレットの提供などで協力させていただきます。tancho-staff@wbsj.org までぜひご連絡ください。

また次号から、トコロジストに関する新連載もスタートいたします。どうぞお楽しみに。

（普及室／堀本理華）

◆茨城県からのご報告

野鳥の会の会員の中で、探鳥会に参加している方は３割程だというお話をお聞きします。探鳥会に参加していな方たちと、どう顔が見える関係を築いていくか。茨城県に、会報の手配りから、会員同士の繋がりを育んでいるという事例がありました。

「会報の手配りをしています」

■財政難への対策から発案

どの支部でも財政難は頭の痛い問題です。財源難は、会員数の伸び悩みと表裏一体ですから、会員数を増やす努力を試みるのが正攻法です。しかし、経済が停滞する中で趣味に回る可処分所得は減少しているし、人口減少は避けられない現実ですから、本会（日本野鳥の会茨城県）のように会員数が伸び切った場合、正攻法な対策と合わせて会員になって頂いたからにはできるだけ長く在籍して頂く工夫も必要と考えています。その工夫は様々ありますが、その一

つが会員の安全安心の確保です。今から８年前、探鳥会参加者に本部の保険に上乗せする保険を掛けることになりました。しかし、原資が不足すると見込まれましたので、他支部では一般的になっている探鳥会参加費を新たに設定し、広い県内の 2 か所で説明会を開くなどして説得に当たりましたが、始めたばかりのカラー頁が無駄遣いなどと批判を受け、案を撤回せざるを得ませんでした。カラー頁は意地でも止められないし、安全の確保は最優先ですから、両方を立てる妙案の検討に入りました。

■会報の手配りに向けての試み

本会ではすでに会報の版下作りは自前でしたし、発送費用もクロネコメール便を使ってコスト軽減をしていましたので、八方塞がりでした。しかし、独自に編集している名簿を眺めると、会員の分布が意外に偏っていること。その傾向が農村部より都市部で強いこと。役員が自分の守備範囲の中で結構な数を賄えそうなことがわかりました。そこで、両立のための打開策として賛同した役員に手渡しできる方をお任せしてみることになりました。

さいわいにも住宅地図が手元になくてもインターネットで場所の把握は可能ですし、クロネコメール便（現在はゆうメール）は厚さが２㎝までならまとめて 1 人の配達員に送ることができます。また、慣れると基本的な配達順路が頭に刷り込まれるため、途中で入退会者があってもさしたる困難もなく、手渡しできるようになりました。そこそこの自信が付いたところで、ローカルな愛好会の責任者に趣旨を説明してお願いしました。これらの会は、狭い地域に会員が集住しているので、効率的でもありました。また、お１人で一般会員がお住まいの場合、近くに別の会員がいて、配達員になる方が顔見知りの会員ならば同様の協力をお願いしました。

■経費削減だけに止まらない手配りの効果

こうして配達ネットワーク作りをし、今では配達部数の３６％は手配りで行うまでに成長しています。これで捻出された財源は会報１回分の印刷経費に相当します。効果は、金銭面だけではありません。１県１支部のような広域をカバーする支部では会員と顔を合わせる機会は、せいぜい探鳥会やたまたま行った観察地で偶然顔を合わせる程度です。しかし、購読会員のような方々にも会報の発行回数だけ顔を合わせる機会ができたため、在歴年数が長くなる傾向にあります。

■注意点と今後の課題

しかし、何事にも注意しなければならないことがあります。そのひとつは、手渡しを是としない方も当然いらっしゃいます。当初は掴めませんでしたが、女性会員にその傾向が高いようです。声を聴いたら、ごり押しをしない。手渡し当初には、会員が配達している旨のペーパーも入れるようにしています。丁寧な配達員は、手渡し当初に口頭で趣旨を伝える配慮をされています。二つ目の注意点は、インターネット情報に時々誤りがあることです。いまどき門柱に表札がないというのも稀でありませんから、不安になったら郵便受けに投函せず、いったん持ち帰って、図書館などで住宅地図と照合します。三つ目として、配達人の適格性があります。見極めはとても難しいですが、誤ると一気にネットワークの崩壊につながりかねません。

完璧にみえる配達ネットワークですが、高齢化という頭の痛い問題が迫っています。窮余の策として生まれたものをどのように維持していくかが今後の問題になりつつあります。

（日本野鳥の会茨城県会長／池野進）

◆探鳥会保険集計結果（2014 年 1 月分）

1 月は 65 支部からご報告をいただき、計 280 回の探鳥会が開催され、のべ 7,240 人が参加されました。

表１．１月の探鳥会保険集計結果（2014 年２月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	18	8	1	27
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	−	−	−	−	−
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	46	11	4	61
小樽支部	2	9	2	3	14
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	14	2	3	19
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	13	9	4	26
あおもり	−	−	−	−	−
弘前支部	3	24	0	3	27
秋田県支部	3	21	5	3	29
山形県支部	2	28	17	2	47
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	8	6	3	17
北上支部	1	10	0	2	12
宮城県支部	6	85	26	12	123
ふくしま	1	33	0	3	36
郡山支部	1	10	3	3	16
二本松	1	9	0	2	11
白河	0	0	0	0	0
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	16	155	61	32	248
栃木	−	−	−	−	−
群馬	9	176	48	30	254
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	15	392	55	115	562
千葉県	13	187	89	58	334
東京	14	670	21	73	764
奥多摩支部	12	209	27	45	281
神奈川支部	12	284	76	48	408
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	21	6	2	29
石川	3	77	10	18	105
福井県	1	7	0	1	8
長野支部	3	59	11	7	77
軽井沢支部	1	9	12	1	22
諏訪	2	16	29	6	51
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	−	−	−	−	−
甲府支部	2	53	11	5	69
富士山麓支部	2	10	5	6	21
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	2	28	3	3	34
南富士支部	2	63	15	3	81
南伊豆	1	5	0	2	7
静岡支部	4	30	3	4	37
遠江	3	65	22	11	98
愛知県支部	15	168	159	38	365
岐阜	−	−	−	−	−
三重	4	20	44	6	70
奈良支部	5	114	3	10	127
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	5	35	38	10	83
京都支部	7	133	53	15	201
大阪支部	23	469	101	105	675
ひょうご	8	134	107	34	275
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	1	18	4	1	23
島根県支部	2	29	2	2	33
岡山県支部	6	119	53	18	190
広島県支部	4	47	15	4	66
山口県支部	6	47	26	6	79
香川県支部	2	60	21	3	84
徳島県支部	5	48	6	5	59
高知支部	2	12	34	2	48
愛媛	5	76	75	7	158
北九州	4	62	5	4	71
福岡支部	6	138	23	13	174
筑豊	4	50	0	4	54
筑後支部	4	39	4	4	47
佐賀県支部	3	38	4	3	45
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	5	90	16	7	113
大分県支部	2	26	25	2	53
宮崎県支部	2	32	34	4	70
鹿児島	5	62	43	17	122
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	280	4,910	1,488	842	7,240

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■次号から撮影マナーの事例を紹介します■

2013 年 5 月号では「野鳥撮影マナーアンケート集計結果」を、2014 年 1 月号では「マナーの悪い野鳥観察者や野鳥撮影者をみかけたら」をお伝えしました。

次号から、隔月で、いくつか事例をご紹介したいと思います。

（普及室／富岡辰先）

■野鳥の子育て応援ポスター、完成しました！■

再び野鳥の子育てシーズンがやってまいります。

昨年まで 4 月から 7 月の期間、ポスター、絵本、紙芝居、冊子で展開してまいりましたヒナを拾わないでキャンペーン。この活動は今年で 20 年目を迎えます。これを機に公益財団法人日本鳥類保護連盟、NPO 法人野生動物救護獣医師協会と当会はこれまでの活動をふりかえりました。そしてヒナを拾わないでというメッセージをさらに深め、「見つけてもそのままに。見守って野鳥のこそだて」という言葉を広めていくことにしました。ポスターデザインも一新。イラストは野鳥まんが家 富士鷹なすびさんの描きおろしです。

できるだけ多くの方が目にする機会をつくり、普及していきたいと思います。

ポスター掲示が可能な場所がございましたら、ぜひ nature@wbsj.org までご連絡くださいますようお願いいたします。

（普及室／尾崎理恵）

▲新デザインのポスター

◆会員室からのお知らせ

■財団事務局 HP のスマートフォン対応■

財団事務局の HP では、2014 年 4 月 1 日に、スマートフォンで見た場合の表示を、見やすいように変更いたします。パソコンで見ることを想定して作られた既存のページをスマートフォン仕様にするには、調整が必要です。

各支部から情報をいただいている「探鳥会情報」や「支部一覧」も体裁がかわるため、あらかじめご連絡させていただきます。

掲載内容自体は変更ありませんが、スマートフォンで情報を見やすくなるので、閲覧者の利便性が高まるものと期待しております。

以下の点について、ご確認ください。

調整内容

・画面の横幅が違っても見やすくなるように調整。
・スマートフォンで崩れる可能性のある特殊なデザインを廃止。
・地図上のリンクがスマートフォンで困難なため、テキストリンクに変更。
・極端に長いページを分画。
（すべてマイナーチェンジです。内容の変更はありません）

スケジュール

・2014 年 3 月上旬～中旬に既存探鳥会ページの調整作業。
・2014 年 4 月 1 日スマートフォン対応。

ご不明な点などありましたら、ホームページ担当の三浦まで直接お問い合わせください。
Tel：03-5436-2632（メディアグループ直通）
Email：miura@wbsj.org

（会員室／三浦岳志）

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信３月号の電子メール版の購読者数は 655 名です。支部ごとの登録人数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信３月号電子メール版の購読者数（2014 年３月 18 日現在）

支部	登録者数	支部	登録者数
小清水	0	福井県	10
オホーツク支部	7	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	3
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	0
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	0	南富士支部	1
苫小牧支部	1	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	4
道南桧山	1	愛知県支部	33
あおもり	1	岐阜	2
弘前支部	4	三重	2
秋田県支部	1	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	0	滋賀	18
もりおか	2	京都支部	131
北上支部	0	大阪支部	5
宮城県支部	6	ひょうご	5
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河	1	広島県支部	6
会津支部	2	山口県支部	2
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	0	徳島県支部	0
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	20	北九州	12
栃木	27	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	1
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	17	佐賀県支部	2
千葉県	15	長崎県支部	0
東京	42	熊本県支部	0
奥多摩支部	46	大分県支部	2
神奈川支部	8	宮崎県支部	2
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	0	やんばる支部	0
富山	1	石垣島支部	0
石川	4	西表支部	1
		合計	655

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

暖かい日が続き、囀りはじめた鳥たちや花のつぼみのふくらみに、春の気配が感じられるようになりました。

今月号では、オホーツク支部と茨城県から独自の取り組みについてご紹介をいただきました。ご感想などお待ちしています。

探鳥会スタッフ通信では、今後も全国各地の支部での活動を掲載していきたいと思っています。他にも女子探鳥会をしている支部はありませんか。tancho-staff@wbsj.org までお知らせいただければと思います。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第１２号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　　2014 年3月 19 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org